

高品質・良食味のお米を作るための 粒すけの栽培暦



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

- 基肥窒素を「コシヒカリ」より多く施用し、適正な栽植密度で移植することで、初期生育を促進しましょう。
- 中干しを確実に実施することで、過繁茂を防ぎましょう。
- 高い外観品質・良好な食味を維持するため、適期・適正な栽培管理を行いましょう。

品種の特徴

- ①「コシヒカリ」と収穫時期が同じ晩生品種
- ②「コシヒカリ」に比べて大粒で、収量が多い
- ③短稈で耐倒伏性に優れる
- ④食味は「コシヒカリ」並み～やや良
- ⑤炊飯米は白く光沢に優れ、幅広い用途に対応できる

適正生育量			
移植時期	4月下旬～5月上旬		5月中旬
土性	砂質土	壤質土・粘質土(房総南部)	砂質土・壤質土
穂数(本/㎡)	440	400	400
粗数(粒/㎡)	31,000 前後		
登熟歩合(%)	85～90		85
千粒重(g)	23.0～23.5		23.0
稈長(cm)	85 以下		
収量(kg/10a)	630		600

生育ステージ

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
4月下旬～5月上旬移植																		
5月中旬移植																		

栽培のポイント

健苗育成

- 「コシヒカリ」と比べて千粒重が大きいので、同じ粒数になるよう1割程度多い、1箱あたり150gとする。

「コシヒカリ」より1.5～2倍多い基肥窒素量

土性別基肥窒素量(/10a)

土性	移植時期	
	4月下旬～5月上旬	5月中旬
砂質土	6～8kg	5～7kg
壤質土	3～5kg	2～4kg
粘質土(房総南部)	2～3kg	1～2kg

- りん酸7～9kg/10a、加里8kg/10aを施用する。
- 「コシヒカリ」専用の全量基肥肥料を使用する場合は、基肥窒素量の不足分を単肥で補う。

移植

- 栽植密度は55～60株/坪とし、疎植にしない。
- 一株植付本数は3～5本。

穂肥は出穂期前18日に施用

- 穂肥は出穂期前18日(幼穂長の平均が1cm、幼穂形成期の約7日後)に施用する。
- 適期を過ぎた遅い穂肥の施用は、玄米中のタンパク質含量が増加し食味の低下を招くので行わない。
- 砂質土と壤質土は、窒素と加里を3kg/10a、粘質土は窒素を2kg/10a、加里を3kg/10a 施用する。

幼穂形成期に理想的な稲の姿を目指す

目標値

移植時期	4月下旬～5月上旬		5月中旬
土性	砂質土	壤質土・粘質土(房総南部)	砂質土・壤質土
草丈	65cm以下		
茎数	590 本/㎡	550 本/㎡	550 本/㎡
葉色	SPAD 値:39 前後 カラースケール値:5.0		

適切な水管理で品質、登熟の向上を図る

- 幼穂形成期の目標茎数の80%(砂質土で26本/株、壤土・粘質土で24本/株)に達したら中干しを行い、過繁茂を防ぎ、根張りをよくする。
- 幼穂形成期～出穂期後2週間は湛水管理を行う。
- その後は間断かんがいを行い根の活力を維持しながら粒の充実に努める。

刈取り適期と調製基準を守り、最後の仕上げを

- 刈取適期は出穂期後38日前後で、穂全体の85%(帯緑色歩合15%)が黄化したときを目安とする。
- 急激な高温乾燥や過乾燥を無くし、仕上げ水分は14.5～15.0%とする。
- 収量は630kgを超えると品質・食味が低下するので多肥栽培は避ける。

その他の技術は基本技術で栽培する